

欧州美術工芸視察の報告

野 口 嘉 光

9月15日晴

敬老の日、快晴の羽田をアリタリア航空特別便DC-8にて離陸右に富士山を見て一路ローマに向う、時速 950 K 高度10,000M 途中給油でバンエック、ボンベイ、カラチで1時間小休止、16日午前1時ローマ・レオナルドダビンチ空港に着いた。羽田空港より立派である。時差8時間、宿はホルゲーゼ公園に程近い Hotel LLoydに 着いたのは午前2時、寝に付く。

9月16日晴

9時朝食 大形cup で珈琲にイタリー特有の固いパン、バターは盛沢山 それにチェリージャム、余り食欲がない。

昼食迄自由時間再度ベッドに入る。

旅先は長いのでヨーロッパ時間に切替える。

昼食はコールドミートとスープ代りにスパゲティーにトマトソース。2時半に土産物屋が市の中心まで案内する。高島屋と提携しているデパート、リナセンテがあり、しぎれたディスプレイを見せる。隣の銀行でドルをリラにチェンジする。1ドル620リラであつた。守衛がピストルをもつて立つて居る。ヨーロッパだなあと思つた。土産物屋はカメオが主でいずれも高い。黒色の皮のネクタイを買う。

ベネツト通りはローマの銀座通りに匹敵するキャフエドパリーなど有名な店が並んでいる。空気が乾燥しているのでのどがかわくコーラ150リラを出してのむ。

ヨーロッパは水が悪く(硬水)日本人は軟水になれているので下痢を起すから注意する様いわれて居たものでコーラにした、飲料水としてミネラルウォーター(130リラ)も売っている。ビールは小瓶ばかりで120リラ、水より安いのでこれからビールに決めた。

ショッピング、バンク等1時から4時迄休み完全にシャットアウトされ買い物や、ドルチェンジに不便を感じずる。

9月17日晴

6時半起床良く寝たので爽快であり快晴なり7時半朝食昨日と同じく大型cupにコーヒと

固いパンとバターかジャム味気なく味噌汁とおしんこがほしい。水の替りにビールを取る、小瓶でもありアルコール分が少なく感ずる。8時半バスで出発、ボルゲーゼの森からピンチオ公園、水時計を始めて見る。公園には市の功労者の大理石胸像が並んで居る。この丘からバチカン市国が見える、バチカン市国入国料 500 リラ。

美術館及ラツファエロの部屋を見る。ラツファエロは美男子で女にもて過ぎて若か死にしたとか (35才) 今も尚此の墓に花と灯がたえない。女にもて過ぎない様用心用心。シスチーナ礼拝堂では先頃「華麗なる激情」で有名になつたミケランジェロの「天地創造」を見る。今日の圧巻であろう。サンピエトロ大寺院でミケランジェロをたんのうする。午後トレブイ (トレバ) の噴水を見てもう一度ローマに来られる様祈つてコインを背を向けて投げる。土産物売りがうるさくついて来る。旧ローマ街で細い石畳の道が多い。色彩もあざやかな二頭馬車もこの町にしつくり合う。

スペイン広場、パンテイオン、オリンピック競技場 (ムツソリーニの遺産) を見る。之の彫刻は (近代の) 写実でも余り良くない等身より大きなもので 100 体位ある。帰り道乞食の多いのに気が付く 1 マネーをあたえる。

9月18日晴

ローマは第二次大戦にも無防備都市として戦禍から逃れることが出来た由何よりだ。今日は Htel の近くの城門を抜け 9月20日通りと反対の南の方に車を走らす、そしてサンパウロ寺院から観光がはじまる。

昨日のサンピエトロの内部の壁画と同様ここも全てモザイク画で特に金色の美しいのは金箔がガラスとガラスの間にサンドイッチになつているので退色しないという。

中食後自由行動で街に出る。4時迄店は休みなので淋しい。

9月19日晴

相変わらず固いパンとコーヒ、バター

Hotel の boy が日本空手を指導してくれと云うので美大生がやつているのを見てるので其の真似事をやつて見せると大いに感心サービスが良くなつた。

今日はアツピア街道を更に南へカタコンベを見学に出かける。地下 4～5 層の墓跡がある 3 尺位の路が幾層かに地下の中を走っている、先の人を見失うと迷子になり相だ。外に出た時の空気のうまさ、花の色のあざやかさに特にヨーロッパは空気が乾燥してきれいだからだらうかと感じた。

中世紀に入つてからの建物は外観だけにとらわれずインテリア（室内装飾）にも可成配慮がはらわれている。

9月20日晴

Hotelのboyに（空手）を指導し日本の5円玉をあたえるとサービスの良い事。パンにスパゲティにコーヒで朝食をすませ今日は聖ピエトロ寺院へ、ミケランジェロの傑作モーゼの像を見る。カラカラ浴場を見るこの大混合浴場は212年建設され6世紀頃迄使用された。現在は夏期のみ野外劇場としてオペラを公演されている。

昼食後無名戦士の墓をおとずれる、仲々良い彫刻がありカメラをパチパチ、日本の墓場の様な陰気さがない明るく展覧会に行つた感じである。イタリアにはテレビが余り普及されて居らない様であつた。昔は文化程度も高かつたかも知れないが現在は乞食も目立つかわりに新市街にはデラックスな建築も見られ貧富の差がはげしいのではないかと思われた。

9月21日晴

午前8時半出発、カンピトリオの丘（ソワイアローレンの自宅が見える）フオノロマーノ及コロシウムを見学する。これ等は古代ローマ時代の代表的なもので世界帝国の政治、経済、信仰の中心であり亦其の時代の権力と繁栄を物語るに充分である。

コロシウムは高さ48m周囲516mの内に見物人席が円形に造られた闘技場で当時の盛会さがしのばれる。

ローマ終着駅へ行つて見る、これは欧州でも屈指の近代建築で有名で得る処が多い。古代ローマにひけを取らない位の近代建築であつた。駅前広場で氷の上にならべられたウォーターメロンを30リラ出して食う夏の姿がまだそこに残つていた。

9月22日晴

ローマを後にしてフィレンツェに向う。

道良し、天気良し涼風を顔に快調そのもの郊外の工場団地から次第に農家へと視野は移行する。牛、馬、羊、鶏、あひる、オリーブ、馬車に乗つたジプシーの群が行く。

途中アツジに立寄り聖フランチェスコ寺院見学ジョットの壁画をたんのうする。午後6時フィレンツェの宿に着く、建物も新しくて部屋も結構、柄タイルと大理石がイタリア建築の特徴のようだ。

9月23日晴

サンマルコ広場アカデミア附属美術館とミケランジェロのダビデの像を見る。ミケランジ

エロの丘、メデイチ礼拝堂、矢張りミケランジェロの彫刻がみせ場だ。ロダンの考える人のヒントにもなった作品がある花の聖母寺、ネオゴシック建築である。

午後はユフイック美術館で待望のウオツチエリーを見る。ヴィナスの誕生、春、ダビンチの聖告、ミケランジェロの油絵（3点中の1点）サンタクロース寺院、ガリレオ、ミケランジェロ、ダンテ、ロツシーニなどの墓がありジョットの壁画貧しき市民のための絵本を見る。

9月24日晴

今日は皆と別行動を取り我々彫刻家4人でタクシーをたのみ午前9時カララの大理石山へ見学に出かける。天気は良し、道路も良し快適なドライブだ。

大理石山に着いたのは午後1時真白な山が連らなつている。土産に灰皿を買う。大理石の彫刻家を訪ねる。赤ら顔で紙で作った帽子をかぶつて仕事をしているのが印象的だつた。布の帽子だと石の粉がたまるので紙にしているらしい、マリアのレリーフを作つていた。帰りマツサの海岸に出る9月24日と云うのに海水浴場は一杯の人であるピーチパラソルが色とりどり列をなし其の下にヨーロッパ特有の強い光線をさけオゾンを楽しんで居た。

ビザに着く、城門をくぐると有名な斜塔とドウオモが見えて来た。白い大理石で作られ緑の芝生としつくり素晴らしくきれいだ、子供等が楽しく遊んでいる。土産物屋でキーホルダーを買いに入る、店の子供が可愛いので金沢のしし頭と置きあがりこぼしをあたえたら母親がキーホルダーの金をどうしても取らなかつた。今日は実に楽しい日だつた。

9月25日晴

8時半フィレンツェの宿を出発ベニスに向う昼迄に着く早途見学フラリー寺院、デイテイアン、カノーバの墓、ベニス派の作品を見る。

道路は細く迷路である車と云う自転車さえオフリミット、サンタマリアの寺院の鐘の音をコンドラで聞く。ドツヂ宮殿と白いためいき橋。

河口近くの硝子工場へ案内されベネツシヤングラスの展示場を見る。高価で手が出ない。帰り水上バスで帰る、水上タクシーもある。ゴンドラは観光客だけで、自家用モーターボートが目立つ。

9月26日晴

相変わらずコンチネンタルスタイルの朝食を済ませバスの人となる。昼食はミラノ駅前のレストランに入るピノ（赤ブドウ酒）100リラと非常に安い、デザート風味が亦格別で

ある。

ミラノ駅もムツソリーニの作品である。駅前に堂々34階 125 mのピラリービルがある、タイヤの会社である。のぞいてみたかつたが守衛が大変うるさいのであきらめカメラのシャッターをきる。市営墓地カソリック、プロテスタント、ユダに分けられている。墓地は1対2,400ドルだそうだ。日本の様な角ばった墓石でなく、皆彫刻で1万体的中60%がヴロンズ他は大理石で生前の像がきざまれている、特に印象の深いものに小児科医の墓は5、6人の子供にかこまれた医者や豪農の主人の墓で等身大の牛3頭を引いた主人これもブロンズ、彫刻展を見てる様で楽しい墓場であつた。サンタマリアデレクラツシエ寺院でダビンチの最後の晩餐を見る。スカラ座を見学する「眠れる森の美女」をやつていた。

9月27日晴

8時出発一路ジュネーブに向う途中ブドウ島が多い地形は甲州と似ていた。高原を100 Kのスピードでつつ走る。道路は良し天気は良し湿気もなく快適である。

渓谷が見える滝、清流、ローカル電車がトンネルに吸い込まれていつた。モンブランが見えて来た。小さなちぎれ雲が山肌をなでて行く一幅の絵の様だ、一同下車、カメラを向けるもの、スケッチをするもので小休止、スイス領に入る。午後4時ジュネーブ着、レマン湖の大噴水も大したものだ。街にはベントのタクシーには一驚、さすが持てる国だと思つた。

国際宗教改革記念碑、国連本部等を見る。其の他見るべきものなし、ガイド日本語を話す。

夕食は大華飯店で羽田出発以来の外米にありつきむさぼり食う。税金の心配のない範囲で家内にオメガを買う。ウインドディスプレイが素晴らしい。

9月28日晴

レモンティーにやわらかいパンが美味。

バスでチューリツヒに向う。昼食は首都ベルンで活気あふれる商店街此処もウインドディスプレイが素適である。商業週間で力の入れ方がちがう。

ビヤホールに入る舞台付の大ホール男子便所は吐くことと兼用の便器あり。チューリツヒに着く市内観光、日本人留学生案内チューリツヒ湖、ライン河の源、ワグナーの家見学す。

保険会社が多い公園には野生の鹿がいる。鹿に気をつける様にと自動車標式が立っている。太陽の見える丘に立つ入陽が美しい。

第二次大戦中スイスの銀行が預つたナチスの全財産が今時効になろうとしていることが街

の最高の話題になつていと云う。世界の金持は皆自国の銀行よりかスイスの銀行に預けに来る想だ。ベンツのタクシーこれではあたり前だと思つた。

9月29日曇り

今日は西ドイツ入りで8時出発、ミュウヘンに向う。

ヨーロッパは何処迄も道路が良い。大型バスだが少しも疲労を感じない。ひとときオーストリ領をかすめる。パスポートを見せる。ドイツ領に入る時亦パスポート拝見となかなかうるさい。ゼラニウム、サルビヤの花盛り、その紅色のさえている事。緑の丘陵と赤レンガの家、広々とした緑に茶や白ぶちの牛、田園風景が続く、午後から快晴となるミュンヘンは年に一度のビール祭りで宿がとれずアウブスブーグのパークホテルに落付く。インテリアの店が多く白と木目を生かした家具、ガラスのいいのは矢張りムラノ製がおいてある。

9月30日晴

気温が低い様だ、タクシーは圧倒的にベンツが多い女性の運転手、市電の運転手も亦しかり、ドイツ女性は働き者が多いと聞いていたが本当だ。

ドイツ博物館でピアノコレクションを見る。

午前11時市庁舎の鐘（カリオン）聞く。スイスのベルンとベルギーのブラセルにしかないと聞く人形の大きさ1.7 m等身大で其の数12体位音楽に会わせて可動する観光客で一杯の人だかり。

ビール祭に出かける。各社が5,000人収容出来る。大天幕を各々はつて開催中、去年は2週間で350万リットルのビールと12万5000Kgのソーセジをこなしたそうだ。

酔ばらい収容所もあり、罰金3マルク、宿のない者は罰金3マルク出して収容所で宿る者も居る想だ。

昼食は芸術家の家と云う名のレストランで食す。

午後美術館へブルユーゲル、クラナツハ、デュラー、チントレット、グレコ、ダヴンチ、シャルダン、ポツチエリー、ルーベンス等の巨大な作品がかかっていた。

10月1日晴

12時30分ニューヘンベルグに着く。

今日も快晴でバス運転手のイタリー人フランチェスカ君はこの春70日間ブラジルのフットボール選手を乗せて欧州各地を巡つたが過半数は雨であつた、お前達はラツキだと云う。

2時半より市内観光、第二次大戦で殆んど破壊された街、片腕や松葉杖の男が目立つ。

ノートルダム前の市場は多くの鳩と造花の花屋さんがならんで其の色のあざやかな事。くすんだノートルダム寺院の色と対象的であつた。

10月2日晴

ニューヘンベルグを後にフランクフルトに向う。

ヒットラー遺産、アウトバーンを走る。国際図書見本市開催中、フランクフルトはホットドックの街だ。ゲーテの生家を見学する、昔のまま台所用品などにめずらしい物があつた。

ライン河畔を歩く、芝生に入る者は子供といえどもいない。草花が美しく育っている。市場に入ると全店ソーセージの店、フランクフルトといえばソーセージの代名詞の様なものだ。

10月3日晴

ライン河を下る。視野がひらけたがかすみがかかり遠くは見えず残念。ローレライの岩を見る。

モーゼル河とライン河の合流点で昼食。

ケルンに着く結構なホテル乍ら街には一寸遠い。市電に乗る。二輛連結吊皮なんてない全部座れる。スタンドのような車掌席に切符売場、席は成型合板後部から乳母車までのせられる。

10月4日曇り後晴

アウトバーンを突走る。除々に地味になる田園風影、屋根は黒く白い壁、やがて国境オランダに入る。とたんにのどかな広野が続くホルスタインが点々とゾン公園のレストランでのどかな食事、記念撮影、深い森、泉と噴水、芝生に白鳥とあひるが群をなして逃げもしない。餅草を粉にした様な緑色のスープ、これだけは頂けない。

アムステルダムへ3時半到着。

ダイヤモンド工場見学、お粗末なものだどうせひもつきの三流店だろう。レンブラントの像を見る。

オランダでは人を訪問する時必ず花を持参する習慣とかで街角には必ず花屋の店があつた。

10月5日曇り

アムステルダムは自転車と運河の街である。亦風車でも有名。1軒に2台の自転車があるそうで車道、人道の外に自転車専用道路が街中にある。風車は戦事中爆撃の目標となつたた

めとりこわされ現在986台70の運河400の橋があり一軒一軒の玄関が極度に狭く作られ二、三、四階に家具を上げる為屋根の下に必ず滑車が付いて居りそして建物は其の為に前かがみに設計され変てこな不安定な感じがする。

中央停車場は東京駅のモデルとか、ユダヤ人の街でラシャ屋が多い、レンブラントの家見学。

10月6日曇り

9時バスで国立博物館へ出かける。

レンブラントの絵「夜警」や世界最初の肖像画、世界最初の風影画等を見る。市立美術館、立派で素晴らしい美術館だ金沢にもこれ位のものがほしいと思つた。ゴッホの底抜けに明るい作品群に時間を忘れる。其の他にデッサン、淡彩皆あかずに見とれていた。ボナール、セザンヌ、マチス、シャガール。スーチン、ロートレック、ゴーガン、等写真や雑誌で紹介されたものの実物を迫力と色彩と構図のよさと美術館の良いムードに酔つてしまつた。

夜水上バスで夜の観光に出かける照明がきれいである。有名な飾窓も見える。この飾窓は夜6時頃から開かれるいわゆる公娼で大和デパートのウインド位の大きさの窓の中に美人がこしかけて客を待っている。赤、青、緑、黄等の照明が彼女の姿をより美しく見せてる。ひやかしが来るとサツとカーテンを閉めてしまう。この飾窓が運河を前に点々とならんでい

る。

ジャポンNO、とことわる訳を聞くとジャポンは病気を持つてるからだとか。先輩が悪いんだ。

10月7日曇り後小雨

アムステルダムを発つときは晴れていたのに国境にさしかかると曇空。パスポート必要なし、ベルギーに入る。

とたんに殺風景である。色のコントラストもない。小雨が降つて来る。

ルーベンスの生れたアントワープの郊外はさすがに一軒一軒が作品である様な住居だ。

ブラッセルもがさがさした感じて一寸日本に帰つた感じだベルギーは九州と同じ位のスペースで人口1,000万人、ブラッセルにその10%が住む、EECの本拠でもある。小便小憎の発祥地で町角に小便小憎が目立つ。

広大な王宮二ツ1958年万国博のシンボルATOMIOMを見学。

10月8日曇り

今日はイギリスへロンドン着は夜との事で8時出発オステンドから船に乗る。3,000トン級の立派なもの、バスも船倉に入る。ドーバーを渡るにふさわしい曇天、1.00P・M出港、へさきに立つてドーバの潮風に当りカモメがつきまとう、二度とこられないと思うとカメラのシャッター、しきり。昼食は船の中でホテルで用意してくれた。サンドイッチにゆで卵とバナナにビール、船中でベルギーフランをシリングにチェンジ、5時間でイギリス本土に着く、ドーバから再度バス、羊の群が多い田園を行く。日没ロンドンの街に入る。テムズ河を渡る。隅田川に似てる。

すすけた街に銀行ばかり目立つ。7階建の大きな古いホテル6階615号室に落ち着く。

10月9日曇り

9時出発、市内観光。

テムズ河、ウエストミンスター、ジエームス寺院、大英博物館を見る。ギリシャ、エジプトの古いものをみて、もう我々はやることがないんじゃないかと思う位だ。偉大で迫力に富み、写実亦抽象亦然り近代につながるものがあるからだ。我々の仕事は将来を見きわめた先見的仕事をスリルを感じ乍らも行動に現らわさなければならないと感じた。古いもの現在のもののイミテーションでは何にもならないと云う事である其の作者より一步も進んでないと云う事である。

絵画、彫刻、工芸、織物、ガラスの美しさ、黒人芸術集取に驚ろく大英博物館だけで1週間位居たい位だ。街は銀行が目立つ、キリの都ロンドンには昼間からネオンが付いている。路はせまい。

10月10日曇り

午前中はテイトギャラリー見学、キリコ、ミロ、ダリイ、グレー・シヤガールデユフイ、ローランサン、ボナール、ユトリロ、スゴザツク、ルオー、マーチン、モジリアニ、ピカソ、ブラック、マチス、ドラク、ゴッガン、ゴッホ、スーラー、セザンヌ、モネ、ロートレック、ルツソー、ミスレー、ピサロ、ルナール、ドガ、ニコルソン、アルプ、モンドリアン、レジエ、カンディンスキ、ザツキン、ヘンリムア、グレゴ等々の作品彫刻の大作は庭に置いてある。

ピカデリーサーカスで昼食を取り、ロンドン塔ロンドンブリッチを見る。ダンヒルをのぞくケタはずれに高価なのに驚く。

夜10時我々は6階の室に入るべくエレベータに6人乗った。6階に付いた時急に落下。一

階迄皆顔色なく抱き合つてしやがんでしまつた。加速がかからないのであとで解つたが安全ブレーキがかかる様になつているらしい。定員4人迄なのに6人ものつた為もあり、ヒヤリさせられた。亦同エレベータで1人だけ乗り4階と5階の中間に30分もストップされた想で其れから後はボーイが付く様になつた。古くて具合が悪いんだ、とにかく命びろいをした。

10月11日曇り晴

ホテルがバツキングダム宮殿に近いので7時に起き1人カメラを下げて散歩に出かける。衛兵の赤い服が目立つ。馬に乗つた兵隊の一群が来る日本に今では見られない姿で昔しなつかしく見とれる。亦ドレもコレも美男そろいで「ひげ」そりあとの青さが印象的、女性にも美人が多く感じた、海賊どもの掠奪のおとし子と見てハハーと感ずるものがある。

今日は1日自由行動でピカデリー散歩やパイプや煙草の土産物を買う。

10月12日晴

ロンドンよさようなら。

今日は待望のフランス入、ドーバを渡る手続がうまく行かずバスがおくれて出発したが船は我々を待つて居てくれた。バスもろとも船に乗ると我々がバスから下りない内にもう船は出発していた、今度はフランス船でやや小さい乍らフランスらしくダンディだ。

4時カレー着、日本並にやや路が悪い。

夜11時あこがれの巴里入をする。北駅前ホテルリッチモンに宿る事になつた。

パリーでは国際自動車ショー及モータボートレース、競馬等があつて観光客が多く入り中央の良いホテルは何処も満員でシャンゼー通りより遠くなつてしまつた。ホテルにトランクを置いて直ぐ夜のモンマルトルえメトロで行く。これから利用も多いと思うので回数券を買う。

モンマルトルではムーランルージュ。街の女。プレーボーイ、通りでも暗い処でもチュツ、チュツ。我々には少し頭に來そうだ。夜の浅草以上の賑いだ。

10月13日晴

今日は素晴らしい天気、昨夜モンマルトルから帰つたのは午前2時だつたが目ざめも良く元気なり、メトロが24時間ストで駅前には異状な混乱振りだ。

今日は市内観光でオペラ座、コンコルト、カルゲール凱旋門、ルーブル宮殿、ミツシセル通り、リュックサンプール公園、ラテン区、パンテオン、ソルボンヌ、ノートルダム寺院

等々、午後再び昼のモンマルトルに登る。画家達が盛んに売画を書いている。

夕食は生がきを食うこれは亦うまい。日本の「かき」よりやせたもので皿の上に氷を乗せ其の上に生がきを開き殻の上に乗せたもの10ケと其の横にレモンの半切れを付けてもつて来る。レモン汁を「かき」にしぼりその塩味とレモンの香り、ツメタさ最高である。香水タブーを買う。

10月14日晴

9時出発メトロでブルデル美術館へ行く。パリーでは細い方の路で解りにくかつたが地図をたよりにようまく見つける。ブルデルの作品ばかり大小200点、昔このアトリエで制作したとか、これを美術館にしもので余り大きくはないが作品はどれもこれも見どころがあり、ギリシャ彫刻の発展とも感じられるが内容はやはりブルーデルだブロンズのものも多く大作は石膏の物もあつた。

メトロでセヌ川に出てエツフェル塔にのぼる。大した物を作つたものだとただ感心するだけ、明日からモータボートレースがあるので各国のボートの準備に祭りの様に賑つてた。

10月15日曇り

今日は9時起床彫刻家ばかりでセヌ川のほとりの近代美術館へ出かける。マチス、ピカソ、ブラック、ドラク、ブラマンク、マルケ、ルオー、デユツフイ、ボナール、スラー、レジエー、藤田、シヤガール、クレー、ミロー、グレコ、ヘンリムアー、ザツキン、バアバリ、ヘツプ、ホース等々の作品に接し、来て良かつたと思う。

静かなレストランで食事を終えて午後はセヌ川でボートレースを見学、二回転復し人がなげ出されるのを見た。

午後5時から二科会の姉妹展フラスコンパレゾーンの招待パーティーに出かける。10人位の会員が出席して観待してくれた、余り料理のないケチくさいパーティーだつたが中々あいそが良かつた。コンパレゾーンを切り上げてサンジェルマン、デブレからサンミツシエルへ20人で満員の店で踊りを見る。午前1時を過ぎ PromCois DiLLon という17世紀の酒倉だつたと云う。穴倉にグラチネをたべに行く中央市場の真中でオニオンスープにチーズをたつぶりふりかけオープンでやいたもの素晴らしい味であつた。もう午前2時頃と云うのにこの穴倉は満員である。ミツシエル、フォンテーニのシヤンソンが聞かれた。もう地下鉄もなく歩いて帰る。

夜のセーヌ川、お熱いカップル達と夜ふかしのパリジャンで賑っていた。

10月16日濃霧

今日は9時出発彫刻家5人でロダン美術館へ行く。大作、小作100点近くほとんどブロンズ作品、肉の塊り、肉の動き、リアリズムの頂点とも云えるか内攻的にも外攻的にもロダンの作品は私を満足させてくれた。而し現代の社会性とか現代の建築にはしつくりしない感じである。美術館裏の庭園に出るとこれは亦打つて変つた近代彫刻アブストラクトの作品、勿論ロダンの作品でなく近代作家のものばかり60点近く林の中に点々と置いてある。鉄の彫刻、石のもの、焼物の作品これ等は大いに私の勉強になつた。この庭園は親子づれの遊び場になつている皆入場パスをもつて何日でも天気の良い時には出かけて来るらしい。子供等は自由に遊び母親は編物をしている、総て自然にとけこんでいる感じだ。

美術学校へ出かけたが日曜日で門がしまり入れずホテルに帰る。夕食後モンマルトルへ遊びに出かける。

10月17日晴

今日は画廊街を歩く事にして9時出発、セーヌ川のほとりに古本屋が並んで居る。橋の上で変な外人に5ドルで買ってくれと小さな紙ずつみを出して云うので何かと云つても中を見せてくれない。交渉している内にグループの姿が見えなくなつたので買わずにグループの後を追つて話すと「面白いものだつたかも知れないぞ」と連中は云うので今だに残念に思っている。

小さな画廊が並んでいる。二科の会員加賀谷氏の個展を見る。色彩豊富なきれいな抽象画で評判も良いと喜んでた。

夕食は久々に日本料理にしよう和金沢市石引町出身者の経営 RestouRant miKi (美紀)に出かける。前以つて住所は聞いて行つたがさがすのに大変時間を要した。5, Rue Lepoeder - Rort Paris 14E Fance だが天ぷら、さしみ、おしんこ、味噌汁、日本なつかしく大変うまかつたが価格も大変高い、日本人ばりの経営で夜8時頃には日本人ばかりで一杯だ。Fanceに来てる感じがしない。メトロで帰る。

10月18日晴

9時起床4人でシャンゼリゼ通りをウイドウショッピングする。ディスプレイは素晴しくあかぬけしてる。

土産に香水を買う、可愛い女の新聞配達をカメラにパチリ、ストリップ劇場に入る、ビー

ル、ワインを飲み乍ら見る、夜はこの小屋も満員になる想だ。昼は観客もまばら。

夜9時半から夜の観光バスで全員出かける。

シヤイヨパレスの噴水はローマにも負けない位。コンコルト広場も良い。凱旋門も夜は一段と素晴らしい水と照明をふんだに使い色と光沢と動く芸術である。リドへ行く矢張り素晴らしい東京のミカドにきたのはブルーベルガールズのほんの一部だつたとか、集まった客も一流、華麗、豪華で夢の様なふん囲気に包まれ今宵も亦午前4時床に付く。

10月19日雨後曇り

羽田出発以来雨らしい雨に逢わなかつたが今日は朝から雨で午前中に上る。もうパリー滞在もあと一日となつたので今日1日ルーブル美術館で過ごす様にきめメトロで出かける。パレスロイヤルで下車、頂度ルーブルの建物を水洗中で洗つた処と洗らわない建物の色の差がはげしい。最近フランス政府の観光客に対するサービスが良くなつたとか。水洗中の入口をくぐる、絵画、彫刻の大変な量である。

ボツチエリー、ベロネーゼ、ドラクロワ、ベラスケス、ミレー、アングル、数へ切れない足が棒になる様だ。最後の力をふりしぼり、モナリザの前に立つ。モナリザの画の前だけ特陳でサクがしてあり警備員が近くに目を光らせて居る。この目とモナリザの微笑が対象的で足のつかれも忘れる位。右から見ても左から見ても観る者の目にこの微笑がついて来る。きてよかつたとつくづく思う。ミロのヴィナスをさがす、ようやくみつけたが東京で見たときより小さく感じた、東京ではものすごく大きく思つたが置いてある建物、環境によつてこれだけ違うものかと思つた、背部がいたんで来ている。つかれ切つて街に出る。

例の氷の「かき貝」と「えすかるご」を食う。黄色の油の浮いた小さな焼物の壺に入つた(えすかるご)これだけは苦手だ。夜シャンゼリゼを散歩。

10月20日晴

今日でパリーは最後、頂度国際自動車ショーをやつてるのでホテルのボーイに処を聞き二人で出かける。大変な人ごみである。写真をパチリパチリ、階段で落す、ケースを付けてなく残念だが愛用のキャノンが駄目になる。

日本のメーカーで目に付いたものは本田技研、日野自動車、トヨタ自動車。日産自動車である。トヨタ自動車のサービスガールに日本の女性一人和服を着てのサービス、聞くと留学生のアルバイトとか、明日立つスเปน行きの用意の為2時に切り上げる。

10月21日晴

朝早く4人でパリ空港からイベリア航空でスペインに向う、3時間でマドリッドに着く。パリと異つた黄土色が目立つ。日本人的目付、はだ色もよく似ている。通貨の単位が再び變つてペセタとセンチモ、1ドルが60ペセタである。

フラメンコを見に行く、ぎつしり一杯の人ごみの中で歌と舞と酒(デイエスアルマノス15°位)で西欧最後の夜をたんのうする。フラメンコのかぶる帽子を買わされる。マドリッドの夜はふけゆく。

10月22日晴

マドリッドの朝は素晴しく照りかがやいて去る事がおしい位だ。イベリヤ航空にてパリにもどり一同と合流、ホテルにてトランクの整理や重量の検査(20Kg)迄を早々に終えバスにて再び空港に向う。午後2時出発、無事故で全員元気に日本に向う。

結 び

今度二科会欧州美術工芸視察団に参加約40日間イタリー、スイス、西ドイツ、オランダ、ベルギー、イギリス、フランス、スペインと8ヶ国廻つて来た。印象は先ず道路の良い事である。短期間これだけで廻つたがつかれない。次に宗教、芸術が生活と結びついて居る事であろう。

イタリーは貧富の差がはげしく古代芸術を見世物としてあぐらをかき、なまけ者が多い様に感ぜられた。

スイスは風景を観光資源とする富める中立国で銀行、保険会社と時計の店が目立つ。

ドイツは敗戦後の立ち上りに努力してる感が深く男も女も良く働き勤労こそ国をを復興させる道と懸命である。

オランダは今次大戦で植民地を失い遺産として際だつた存在であるレンブラントやゴッホの名作は今尚観光客がたえず、風車、チューリップ、ダイヤモンドと運河の国である。

ベルギーは九州位の小国で見るべき物もなく小便小憎の発祥地でもあり街の四ツ角には処々この小憎を見る程度である。

イギリスはヨーロッパに於ける伝統ある国で見る所が多く大英博物館、パツキガム宮殿、タワーブリッジ、ロンドン塔等特に大英博物館は我々の為に大いに勉強になつた。

フランスは、美術王国、国営を含め市、町、村で持っている美術館が400以上もあると云う。

観光客も多く国庫収入金額の6割に匹敵するとの事で最大の理由は観光客を誘致する美術

的遺産の多い事であらう。フランスが世界的美術の中心国となつたのは16世紀以後、先輩国であるイタリアからレオナルド・ダ・ヴィンチを迎えたフランソア一世の偉大なる力によるものである。フランス大革命後ナポレオンの出現は建設的秩序の回復で大きな遺産を残した事であらう。古典主義からロマン主義に個性はロマン主義にも抵抗して写実主義を展開し王帝のおかかえ美術家が貴族から民衆へと個人を対象に発展し個性的創造の分化は多種多様な主義主張を生み感覺的表現が先鋭化して現代美術へと発展してゐる。イギリスの大英博物館とも匹敵するルーブル美術館があり、亦近代美術館、博物館、ロダン、ブルーデル等作家単独の美術館もあり勉強する処が多い。

スペインの首府マドリードは高原の中であり南欧の強い太陽が照り輝いているが日影は涼しい。アルカラ通りは7、8階の建物が並び近代的街である。半面ロバとジプシーが目につく、最後にフラメンコ舞踊を見る。青い空、強い太陽、赤、黄、黒の強い色彩の衣類が印象的だつた。

昭和41年11月1日 記